

ロンドンオリンピックも8月12日の閉会式で終わってしまいましたが、テレビの前で熱い声援を送り、寝不足が続いて体調を崩していませんか？暑い日本の夏はまだまだ続いております。暑さのピークを迎えるこの時期は、節電にもピークが来る一番厳しい時期ですが、多くの感動をくれたオリンピック選手のがんばりを見習って私たちががんばりましょう！



まさかと思っても
電磁波ゴトで逮捕の
善良そうな中年夫婦

ここ数か月、新たなゴト手口を中心に伝えられてきましたが、新ゴトにばかり目が奪われて、過去のゴト手口を見逃していませんか？

不特定多数の人が出入りするパチンコ店においては、善良なパチンコファンに紛れて密かに悪さをする輩がいます。その悪さをしてきた人物が、まさか！という人だつたりして発見が遅れて被害が大きくなるというケースがあります。先日、ゴトで逮捕された事案がまさにその典型です。

逮捕されたのは中年の男女で、一見すると仲の良い中年カップル

でした。しかし、そのカップルの中年男性の衣服の下には電磁波発信器が装着されており、中年女性の方は見張り役でレシーバーを使用してインカムを傍受していたことが警察の取り調べで発覚しております。



話題の手口解決でも
ほかの手口に注意を

この中年ゴトカップルが犯行を行っていた機種は、「CRスーパー海物語IN沖縄2SAHS」と「CR大海物語スペシャルSAP」のいずれも甘デジタイプでした。

「スーパー海物語IN沖縄2」と「大海物語スペシャル」の電磁波ゴトと言え、大当たり直撃の体感器を併用した電磁波ゴトというイメージがあります。このゴト手口に関してはメーカーから、遊技機から発する電磁波（ノイズ）をカットする透明なポリカーボネイト製の特殊なシートを、ガラス板の表面や基板を覆うように裏パツクの上から取付ける対策がとられています。ゴト師が微弱な信号を受信できないようにしたこの対策品が配付されて、電磁波ゴトが終息したと思っている人が多くいると思います。しかし、対策されたのは、大当たりを直撃するという手口に対してであって、「スーパー海物語IN沖縄2」についてはメーカーが純正で設置している電磁波検知センサーを突破して、電磁波でスタートを回すという手口が依然発生しています。



アンテナ首から下げ
特徴的な仕草を
しなくても済む

手口は、普通に遊技しているフリをしながら、スタートへの入賞

ゴトに勝つ

1

高石隆一

「ほつれんそつ」の徹底こそ
ゴト対策の重要なツールに

写真1 胸から発射タイプの電磁波発信器

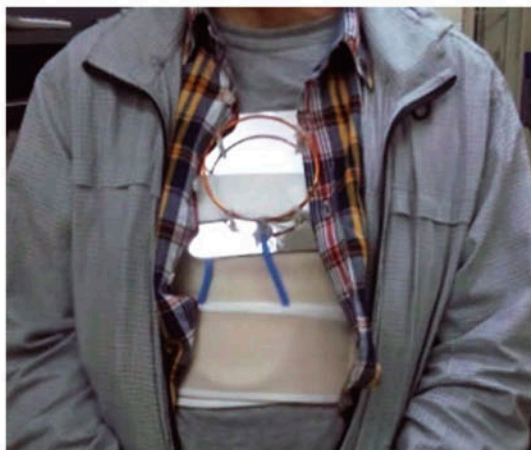


写真2 首から下げたゴト器具の装着姿



があった瞬間に電磁波を飛ばして、入賞した球に電磁波を当てて、その玉を媒体にしてスタートセンサー



写真3 本体とバッテリーは腹に巻きつけている

1を誤作動させて過剰に反応させるといふものです。つまり、スタートへの入賞が1発しかないのに、保留が2〜4個点灯するというのです。当然、このゴト手口だとスタートやベースが高くなるというデータ異常が発生するのですが、大当り確率が約100分の1という甘デジで犯行を行なっているのです、大きくデータ異常が出る前に大当たりを引くケースが多く、仮にデータ異常が出そうになるくらいハマった場合には、電磁波の発射を止めて普通に打つことで、ゴト行為が発見されないように工夫して犯行を行なっているのです。

また、これまでの電磁波ゴトで



写真4 発射スイッチは右足の親指に装着されている

あれば、左腕に電磁波の発射アンテナを仕込んで、左腕を遊技台の盤面に近づけるといふ特徴的な仕草が多く見られました。最近では電磁波の発射アンテナを首から下げて胸の当たりから電磁波を飛ばすことにより、遊技中の姿勢も普通のお客様の遊技と何も変わりがないので、発見が難しくなります。やっかいな状況です。

夏になると電磁波ゴトが減ると過去には言われていましたが、このような状況から夏になり半袖になると薄着になると、電磁波ゴトはいつ発生してもおかしくないといいことを十分に理解して、ホールスタッフの方々へ注意するように徹底してください。

データ異常少しでもマーク継続すれば隠れた実態つかめる

ある店舗では、特筆するほどデータ異常が出ていた訳ではないが、その店舗の役職者の方の長年の経験から、なんとなくその台のデータが気になって気になって、その当該台で打っていた人物を防犯カメラの映像で確認したそうです。その映像をチェックしても、打っている仕草や姿勢は普通のお客様と違いはなかったそうで、データで感じた違和感は、自分の勘違いだったのだろうかと思ったそうです。後日、また同じようなデータに違和感を感じて防犯カメラ



写真5 左腕に仕込んだアンテナを近づけている仕草

の映像を確認すると、以前に違和感を感じた時の人物と同一の人物がそこに居たのです。「また、あいつだ！」その方は、何かわからないがゴトにやられていることを確信しました。点の情報をそのままにするのではなく、線にするこにより見えてくるのがいっぱいあるのです。

今回の中年カップルのゴト師が発見から逮捕に至るまでの過程もこれと同様で、データの違和感に対して長期に渡ってその不審人物を店舗側でマークした結果、系列店舗に来店した際にホールスタッフがすぐにその不審人物を発見してマークを開始した。中年男性はCRスーパー海物語IN沖縄2SAHSで遊技を開始し、連れの中年

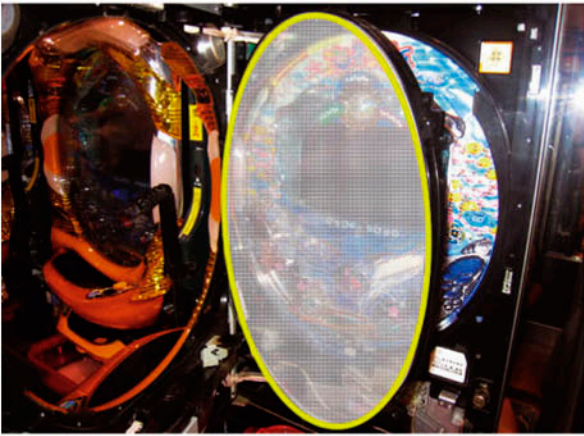


写真6 メーカー対策部品

女性は休憩コーナーに座っていた。中年男性の遊技を防犯カメラで監視していたが、カメラのアンダングルにより電磁波ゴトの犯行が現認できなかったため、ホールスタッフが発見し、この中年男性の付近に座って遊技の様子を伺っていると、スタートへの1個の入賞で保留が2〜3個点灯するのを現認した。すぐに警察に通報し、この中年カップルの身柄を押さえてもらい、事務所で話を聞いたところ、素直に犯行を認めたので逮捕に至ったというものでした。



報告など徹底して みんなの共有情報に そして警戒モードへ

「あれ？」と思うことを「まあいいか」とそのまま放置してれば、ゴト被害に気がつかずに、いつの間にかゴト師が常連化して、ますます発見が難しくなります。「あれ？」と思うことを報告・連絡・相談するという、ビジネスマナーの定番である「ほうれんそう」を徹底することが重要なのです。ゴトに関する話から少し脱線する気がしますが、私の感覚として

「ほうれんそう」が徹底されている店舗では、ゴト被害の発生も少なく、仮にゴト被害に遭っても逮捕に至るケースが多いと感じます。

「ほうれんそう」が徹底されている店舗では、ちょっとしたでも気になるお客様や不審人物を発見した場合、すぐに「ほうれんそう」が実施されて、全スタッフの共有情報になるので、店舗全体が不審者に対して警戒モードを取ることになります。不審者は、その警戒モードの中では悪さが出来ないのです。結果的にゴト被害の発生が少なくなります。もし、不審者が店舗側の警戒モードに気がつかずに悪さしたのであれば、店舗側がすぐに犯行に気がつき、結果的に警察に逮捕されるというパターンにハマります。「ほうれんそう」が徹底されている店舗と接客レベルが高いという店舗は、イーコルの場合が多く、接客レベルが高いスタッフというのは、来店するお客様ひとりひとりをよく見ており、その結果、「あれ？」という違和感に対する「気づく能力」が高く、気がついたらすぐに「ほうれんそう」をするというのが徹底されています。ゴト対策のレベルアップ

と接客力のレベルアップも兼ねて、ビジネスマナー「ほうれんそう」を見直してみませんか？



「報告」にもいろいろ 特に重要な「中間報告」 軌道修正が適切に

「報告」とは、経緯や結果など現状の状況を伝えるもので、短時間で解決できない問題の場合は上司に対して常に報告をする癖をスタッフにつけさせることが重要です。完了報告・中間報告・緊急報告・状況報告など、報告の種類は多数あります。

「完了報告」は、指示を受けた仕事が終わった時の報告で、仕事の完了までの経過でどんな問題点が発生して、どのような手段で解決したかを報告させることが重要です。今後のために予測できる課題や改善点の提案もあれば完璧です。「中間報告」は、仕事の途中経過や見通しがついた時点での報告で、仕事の進捗状況や計画との差発生している問題点や今後の見通しなどを報告させます。中間報告はとても重要で、業務の進捗状況はもちろんのこと、もしも誤った

判断をしている場合は適切な方向へ軌道修正させることもできます。逆に、中間報告がない場合は、上司は仕事に問題がないと思っており、誤った判断のまま時間が過ぎ、結果的に大きなトラブルが発生するケースもあります。最悪の場合、会社に対して大きな損害を与えてしまうケースもあるので、中間報告は、良い事も悪い事もすべてのままに報告させるようにしましょう。

「緊急報告」は、クレーム発生や予定変更、突発的な問題などの緊急性を要する特別な事態が発生した時の報告です。ゴトや不審者などの「気になること」があった時の報告もこの緊急報告になります。問題発生時はもちろん、問題が起こりそうな事態を感じたらすぐに報告させることが大切です。

「状況報告」は、日常の仕事全般を通じて考えたこと、感じること、気になることなどの報告で、主に朝礼や終礼の時に行われるものです。朝礼や終礼が形骸化している店舗も多くあるように感じます。状況報告が多く上がってくる朝礼や終礼になるように見直してはいかがでしょうか？

「連絡」は情報共有 「相談」しやすい 環境作りが大切

「連絡」は、仕事の関係者へこれからの予定など互いに共通認識が必要な情報を伝えることで、同僚や社内間における情報の共有も連絡に含まれます。ゴト被害や手口に関する情報を全スタッフで共有することも重要で、一部の役職者やセキュリティ担当者だけが、不審者の挙動を知っていても意味がありません。同じことを繰り返しますが、「全スタッフで情報を共有すること」これがとても重要なので、「連絡」の徹底をお願いいたします。

「相談」は、自分で判断できないことや不安なことに対して上司に指示を仰ぐことです。経験したことやなければ自己判断ができないのは当たり前なので、普段から部下に対して迷ったときや不安な点があるときなどは、勝手な判断で行動するのではなく、必ず先輩や上司にアドバイスを求めるように指導してください。相談者は「こんなことをわざわざ相談して：」と

思われるのが嫌で、独断で間違った方向に進めてしまうというケースが多々見られます。日頃から「報告」と「連絡」でスタッフとコミュニケーションを取り、相談しやすい環境を整えておくのが大切です。「相談」を受けやすくするために、定期的な個人面談の実施というのをもひとつの方法だと思えます。外部突破でゴト器具の取り付けが難しくなってきた昨今、ゴトグループがホールスタッフをゴトの手先として悪の道に勧誘するケースが全国的に散見されております。このような事件が発生する店舗は、「ほうれんそう」が上手く機能しておらず、特に「相談」できる雰囲気がない企業に発生しがちな気がします。

「ほうれんそう」のどれもビジネスコミュニケーションに必要な行為で、ゴト対策としてもとても重要なツールになります。この記事を読み今更と思う読者の方も多くいたかと思いますが、実際には「ほうれんそう」を実施していない、「ほうれんそう」が機能していないという企業はまだ多数あるのです。過去には、「ほうれんそう」の徹底により、ゴト対策だ

けでなく、業務のミスが減って、状況報告が増えたことによりお客様からのニーズや動向をいち早く掴むことができるようになり、この状況報告を参考にマーケティングを実施して業績に影響するまでに至った店舗もあります。「ほうれんそう」が適正に実施されているのか、徹底されているのか、自店の状況を是非ご確認ください。

今号では、スロットのA R T機を狙ったゴトの手口について触れませんが、このゴト被害が無くなつたわけではありません。今年、全国で一番活動しているゴトグループが多いのが、A R T機を狙ったゴトの手口です。まずは、過去の記事を参考に、全ホールスタッフへA R T機を狙ったゴトの手口について「ほうれんそう」を徹底していただきたい。よろしくお願いいたします。

■高石隆一 ■たかいしりゅういち
警備会社の指導員、セキュリティ会社を経て2003年、有限会社ジャパン・セキュリティ・サービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務める。パチンコ産業のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。「一期一会」が座右の銘。